

8 まちづかい塾

活動のテーマ：みんなで創って使う地域のカフェハウス 設置事業

活動の特徴

容易なアプローチで住民主体の公共空間の利活用を牽引



活動対象地域 岡山県岡山市



キーワード

案ずるより生むが易し
やってみる

団体のミッション

公共空間を活用した誰でもが楽しめる「場」づくりを提案することで、住民による自発的な「まちづかい」意識の醸成、安心安全なまちの創出を促す。

この団体とは・・・

岡山市の中心部でのオープンカフェ開催を通して公共空間の有効活用や住民主体のまちづくりを市民に呼びかける住民、まちづくり専門家の集まり

助成対象活動の背景

市内の公園に、オープンカフェ開催用の機材を収納できる倉庫と店舗に兼用できるカフェハウスの設置が可能となった。

活動内容

- ・カフェハウス設計デザインコンペ
- ・役所との協議
- ・カフェハウスの着工、竣工、活用へ

団体設立時期 2003年2月
代表者 小野 大作
連絡担当者 藤本 まりこ
連絡先 住所 〒700-8006 岡山県岡山市藤崎5-1

電話
FAX
E-Mail info@michicafe.net
ホームページ http://michicafe.net

1. 団体の設立経緯と目的

着目：

海外におけるオープンカフェ及び路上の有効活用によるポテンシャルを、魅力ある中心市街地・中心市街地の活性化のツールとして考え、2000年に「オープンカフェ検討委員会」を設立。

岡山市は県庁所在地でありながらこれと言う特徴が無く、全国的には倉敷市の方が知名度は高いのが現状です。自分達の生まれ育った町に誇れる何かをほしい。訪れる人が暮らしたくなる魅力がほしい。探しても見当たらないから作っちゃおう！というのが団体設立のきっかけです。

魅力ある都市の環境やデザインを考える「都市環境デザイン会議（以後 JUDI と呼ぶ）」中国ブロックの例会で披露された広島市の町全体をカフェテラス天国に！と活動を継続している「広島カフェテラス倶楽部」の経験談を参考に、岡山でもぜひやりたいと検討委員会を立ち上げました。しかし、検討会議は勉強会の繰り返しでなかなか腰が上がらないまま年月が過ぎていきました。

国の施策：

2003年12月

内閣府発表「規制改革の為のアクションプランの適切な実行」

2004年2月

内閣府発表「地域再生推進のためのプログラム（抄）」

2004年3月

内閣府発表「規制改革・民間開放推進3ヵ年計画（抄）」



後楽園と岡山城が間近のオープンカフェ

2005年5月

国土交通省「公共空間利用の地域活動円滑化のためのガイドライン」発表

地域のニーズや実情に応じて、道路空間をより柔軟に活用するなど、街の賑わい創出などの観点から、道を活用して継続的に行う地域活動（オープンカフェ、美化活動、防犯活動など）の円滑化を推進することとした。

このような公共空間活用の規制緩和を機に、多目的有効活用模策の社会実験を行うことを目標として2003年に JUDI 中国ブロック岡山支部のメンバーを中心に準備委員会を設立しました。その後2005年、勉強会に飽きた仲間3人で「オープンカフェ実行委員会おかやま」を設立し、岡山市で初のオープンカフェ開店にこぎつけました。

経緯：

2000年度 オープンカフェ検討委員会発足

2001年度 各地オープンカフェ見学会5回 開催

2002年度 オープンカフェ準備委員会設立

2003年度 準備委員会勉強会3回開催

2004年度 カフェテラス倶楽部勉強会3回開催

2005年度 オープンカフェ実行委員会おかやま設立

2006年度 青空喫茶+ライブ+パズール+ 複合喫茶に進化

2007年度 オープンカフェ実行委員会おかやまを「まちづかい塾」へ改組・改名

2008年度 現在に至る

目的：

公共空間を多目的有効活用した「人がいる町・人中心



参加型アートカーニバル

の街」住民主体のまちづくり

長期目標：公共空間の経済活動を含む民間利用の法整備
法整備の長所

- ・使用形態の統一規制による良好な都市景観の創出
- ・使用料の整備費充当による維持管理費の税金投与削減
- ・使用場所への優先的施設充実費による地域の設備向上
- ・街中の人々の滞留が育む日常的賑わいの創出

中期目標：街角に人の滞留空間を創出し、目配りのあるまちづくり

目配りの有る街の長所

- ・路上における安心・安全の確保
- ・地域の緩やかな監視と自発的情報ネットワーク発生
- ・孤立感、社会分離不安の解消
- ・公共空間、街の魅力と潜在能力の再認識促進

短期目標：公共空間を多目的に利用する楽しさとポテンシャルの再発見

多目的に使う長所

- ・老若男女誰もが参加でき遠慮無く立去れる自由空間創出
- ・機能弱者の度合いに合わせた利用しやすい開放空間入手
- ・オープンエアーの開放感に心にゆとりを育成
- ・座ることで見慣れた景色の新たな魅力を発見

オープンカフェの実施場所は、岡山駅から岡山城を直線で結ぶ桃太郎大通りの終点、岡山城前の石山公園を拠点に選びました。旭川河畔で後楽園、岡山城への玄関にあたる場所です。公園には、あまり利用されていないステージもあります。さらにステージ前は不法駐輪の自転車に占拠されています。まさに我々の出

番。「低未利用な公共空間の多目的活用の模索」という社会実験にはうってつけの場所でした。

オープンカフェは、テーブルと椅子を並べ無料のコーヒーサービスで始まりましたが、未利用のステージを横目に「誰か演奏でもしてくれればいいのにね！」という客の声のあることを話していると、「ライブの練習をしたい」「人前での練習がしたい」というミュージシャンの無料ライブが始まりました。すると音楽を聞きつけて客が一気に増え、各人の滞留時間が長くなり、それを見つけたアーティスト達が手づくりの小物売らせてほしいと集まり始めたのです。結果、現在、月に2回の定例のオープンカフェに加えて、春秋2回のアートカーニバル、アーティストの開催するイベントへの出前カフェ、ナイトカフェ、季節カフェ等複合型のオープンカフェに成長を遂げています。

又、「まちカフェリーダー養成塾」を開講し、価値観・方向性を共有できるスタッフの育成も行っています。

2. これまでの実績

* 当団体では、オープンカフェを「青空喫茶」としています。

2005年度	計 17回	
	青空喫茶	14回
	出前カフェ	3回
2006年度	計 28回	
	青空喫茶	5回
	青空音楽喫茶	12回
	出前カフェ	4回
	カフェ談義	5回
	青空美術喫茶	2回

* 2006年度岡山市くらしやすいまちづくり賞 表彰



ナイトカフェ



まちカフェリーダー養成塾

2007 年度 計 42 回
 青空喫茶 2 回
 青空音楽喫茶 15 回
 出前カフェ 3 回
 街カフェ養成講座 6 回 43 名参加
 街カフェ 3 回 3 店舗開催後 4 店舗計
 画中
 青空美術喫茶 1 回
 参加型アートカーニバル 2 回
 各 2 日開催 計 4 日間
 JAZZ&NIGHTCAFE in 柳川 8 回

- * 2007 年度 JUDI 賞 受賞
- * 2007 年度 ESD・環境活動発表交流会奨励賞 受賞

2008 年度 現在に至る

* ホームページ <http://michicafe.net/> のあゆみ参照

3. 助成年度の活動内容

1) 活動の背景

2005 年 4 月 29 日、スタッフ 3 人でスタートした青空喫茶は、岡山初のオープンカフェとして各方面から注目を浴び、1 人、2 人と開催を手伝う仲間が増えてきました。しかし、参加者から次のような声が上がってきました。

- ・開催日に郊外の倉庫から椅子やテーブル等の機材を搬出入するが、専用の車(1t)と人手が無ければ開催できない
- ・重い機材の運び出しが重労働である

また、

- ・搬出入の車がなくても仲間が集まった時にいつでも青空喫茶を開店したい



石山公園内のカフェハウス建設予定地

という声もささやかれるようになりました。そこで近隣に倉庫を探しましたが、中心市街地で家賃が高額なため適当なものが見つからず、団体の解散の兆しも出てきました。時期を同じくして、岡山市公園課から自己資金で設置するならば、機材倉庫と店舗に兼用できる「カフェハウス」の公園内設置を許可するという話が浮上しました。そこで、資金調達のために H&C 財団の助成事業に応募することとしました。

応募した活動は、県内の一般及び学生を対象にカフェハウスの設計デザインコンペを行い、最優秀者の作品を現地に仮設建造物として製作し、設置することです。製作にあたっては、コスト削減を目指し、できる範囲は自分達で行うことを目標としました。助成が決定してすぐに、デザインコンペの公募を開始しました。

カフェハウスの具体的なイメージ

- ・一坪程度の組み立て式簡易平屋
- ・通常、椅子・テーブル・パラソルの機材を収納する倉庫で、開催日に機材を出した後、中にスタッフが入り、カウンター越しにコーヒーを提供する

2) 活動内容

カフェハウス設計デザインコンペ

新聞発表のほか、ポスターとチラシでデザインコンペの募集を広く一般に行いましたが、新年度早々のあわただしい時期と重なった上に一般の人が参加しにくい設計競技用の設計図の募集にしたため、応募作品がなかなか集まりませんでした。

そこで、デザイン画募集という形式に変更して広く参加しやすくし、当初 6 月に設定していた締切期限を



デザインコンペの審査風景

9月に延期すると、建築士、大学、専門学校、高校、児童等から126点の応募がありました。審査委員は建築士会名誉顧問の谷義仁氏、岡山大学の橋ヶ谷佳正教授、山陽学園短期大学の澁谷俊彦教授、工藤デザイン代表の工藤美子氏、SNS代表のむらかみよしこ氏の五名にお願いしました。審査委員は三点を優秀賞として、良い所取りで実施設計したほうが良いとの判断で三点合作としました。

市役所との協議

三点合作の実施設計とパースを市役所公園課の担当者へ提示し、サイズ・設置場所・用途・管理主体としての扱いの位置付け等々、具体的な協議開始となりました。その結果、設置場所に当初のステージ前から公衆トイレ横の、地下ケーブルと樹木の隙間を指定されました。樹木の枝が邪魔になり、サイズを一回り小さくしなければ工事に支障が出る……。設計変更、見積もり取り直し……。しかし公園内に設置できることは、市民にとってはすばらしく大きな意義と価値があります。少々のことには目をつぶり、地縄を張ってじっくり役所の許可を待ちました。都市計画課、地域振興課など他の部署からも何とか市民活動を応援できるようにと、担当部署に働きかけてくれました。その結果10月末に、枝が当たらないようにだけ小さくする条件でカフェハウスの設置許可が下りました。

着工

年内に竣工したかったのですが、工務店が年末にかかるので年明けからの工事にさせてほしいとの事。安くしてもらっているので無理はいえません。職人の手が空くのを待っての着工となりました。キープしていた材木は、市役所との協議の間に売れてしまっていま

した。おまけに昨年末から異常気象で、晴れの国岡山が11年ぶりの大雪に見舞われました。次の間伐材の乾燥がはかどりません。といって機械乾燥するだけの予算はありません。製材所から間伐材の焼き板の納品は、乾燥を待たなければならないので、2月半ばになるとの連絡が入ります。でも2月半ばなら本年度内に間に合います。皆ほっとしました。正月明けから大工が材料の刻みをはじめ、現場に出入りを始めました。近隣の人達も散歩がてら見に来ました。観光客や通行人から何が建つのか問われるようになりました。ベテランの大工仕事に近隣の年寄り達は、誇らし気に観光客に説明する一幕もありました。一週間で躯体は出来上がりました。そこからはスタッフや有志の作業です。集まれる者で、防水塗料や土壁の下地を塗り、焼き板を貼って珪藻土を塗りました。皆で土の中にわらを入れたり、素人ばかりが右往左往しながら仕上げました。3月5日、カフェハウスが完成しました。珪藻土の乾燥を待って翌6日、看板を取り付け養生シートで覆いました。竣工式の二日前でした。

助成決定後の流れ

- 5/2 岡山市公園課へ助成金確定を報告 設置事業開始の報告
公園課の担当者の異動があり、引継ぎがないという理由で却下・待機
- 6/11 市役所公園課の新旧担当者と当方を交えて協議開始 実施設計の決定後まで承認凍結
- 9/22 コンペ最終審査と発表 優秀者へ賞品発送 実施設計開始



カフェハウスの建設 1



カフェハウスの建設 2

- 9/25 公園占用許可申請書提出
- 10/15 設置位置協議開始
- 10/31 設置位置決定 着工、縄張り、大きさの変更指示
- 11/22 規模の協議開始 大きさ（平面積）変更確定
- 11/26 公園占用許可申請書承認 建築資材発注（外装焼き板の乾燥制作開始）
- 2/4 建て方開始
- 3/8 竣工式

設置場所や大きさ変更の意外な効果

設置場所がステージ前（公園中心）から公衆トイレ横の木立の中（公園のはずれ）へ変更となり、不満でした。ところが開店して新しい発見をしました。ステージ前は後楽園へ向かう、入ってくる人の目に留まりやすいところですが、公衆トイレは帰っていく人の目に留まりやすいところなのです。入って行く人は帰りに寄るつもりでも他の出口を使うと帰ってきません。逆に帰るときに目立つ場合は、園内を回遊した疲れを癒すため、町へ戻る前のトイレ休憩にと足を止めやすくなったようです。来客はカフェハウス設置前の3倍に増えました。又、以前はステージしか見えなかったのですが、今度は後楽園・岡山城そして旭川の川面が見えます。立地としては、かえって良くなったと言えるかもしれません。

また、市役所公園課との協議においては、大きさについてもなるべく小さく目立たないもので、但し、岡山城の玄関口にふさわしい景観的に調和するお洒落なもの、との条件がつかまりました。そのようなわけで当初の予定からは一回り小さな建物になりましたが、こじんまりした形も景観に調和して、来客者からは大変好評を得ています。



焼き板を張られたカフェハウス

活動推進にまつわるエピソード

- ・市役所公園課へ助成決定の報告に行ったところ、担当者が異動していて、後任者へはカフェハウスについて全く申し渡しがなされていませんでした。設置許可などとんでもない。既に前任者の許可を得てデザイン画募集を新聞発表しており、応募作品5点も送られてきていました。短気をおこさずじっくりと粘って、新任の担当者と前任者と当方で設置を前提とした協議を始めました。
- ・公園内への設置という特例の難しさと、行政担当者ごとの認識・解釈の違いによる対応の温度差をひしひしと感じましたが、すんなり進行しなかっただけに、完成したときの団結感・達成感は格別でした。
- ・イベント参加者であるアーティスト達が、市長への陳情や市議に相談してくれたりと応援してくれました。

協力者・協力団体

- ・町内会 一般市民のイベント参加アーティスト

4. 活動の成果と課題

1) 目的・目標の達成度 自己採点

- ・適正度 内容 優
余裕は無いが使い勝手や維持管理のよいものを作れた
- ・貢献度 社会 優
公共空間利用の促進に飛躍的な一歩となった
- ・協力度 人 秀
地域や利用者の協力的行動が一層の連帯感を強めた
- ・計画性 時間 可
行政との折衝から逃げ腰だったためかなりロスを出した
- ・環境性 物 優



メンバーで土壁塗りにも挑戦

景観に調和した形態・環境にやさしい素材で好評である

・資金配分 金 良

多少の変化は出たが予算内で収められた

2) 地域内外への波及効果

- ・町内会や当会員がいつでも遠慮なく安心して機材を利用するようになった。
- ・閉催時に訪れた人々にも活動の存在を広報できるようになった。
- ・会員の心のよりどころ・拠点となり、本会自体の安定感が出てきた。
- ・地域外からニュースを見て見学に来るようになった。
- ・思いがけない方面からの支持者が尋ねてくるようになった。

3) 活動の継続性

- ・本建物設置により機材が利用しやすくなったので開催日が一気に増加した。
- ・本建物は行政の協力姿勢の象徴として後継者の励みになり継続心を補助している。
- ・お洒落度の高い本建物は若者からも注目され次世代に愛される兆しがつよい。
- ・行政間・管理主体からの評価が高く、規制緩和の事例となりつつある。
- ・本事業の拠点づくりで生まれた安定感が、継続の安定へつながってきている。

4) 活動推進に活用した資源がもたらした効果

- ・人材 本事業に協力を求めたことで潜在する多くの理解者、支持者を発掘できた
- ・情報 斬新で注目されメディアで取り上げられたため主旨を広報する機会が増えた

- ・資金 現金の協力は無かったが、資材の提供や労働提供があり連携の和が広がった
- ・拠点 立地、利便性、機能性、拠点として共に手ごろで親しみやすく利用しやすい
- ・ネットワーク 目に見える拠点があることでネットワーク意識が強化された

5) 活動着手後に見えてきた課題と解決方策 課題

- ・行政担当者の理解のバラつき（数年前からの国の施策を知らない人もいる）
- ・地域が活動主体となり始めた場合、古い地域外参加者との意識のギャップ
- ・開催日が増えて機材利用者が重複した場合の対策

解決策

- ・対話を繰り返し、理解を得られるよう根気よく説明し相手の立場も理解する
- ・共通の課題や話題や楽しみで、地域内外・年齢ボーダーがはずれるよう工夫する
- ・お互いの連絡を密にとり、共に共催できる環境を日常的に育む

5 . 今後の展開

1) 団体や活動の理想的な方向性

活動の場の拡張

- ・多岐にわたる分野での理解者・支持者の増加
- ・行政担当部署の理解と柔軟、且つ前向きな取り組み姿勢

活動しやすいシステムの構築

- ・簡素・明瞭なスタイルの統一と、個々の思いを伸び



除幕の瞬間



竣工式での祝辞

やかに表現できる自由度の確保

- ・日常的に価値観の共有が出来る開放された体質

2) 組織体制

- ・会員一人一人の負担を軽減できるよう簡素・明瞭化
- ・会員一人一人が自立して活動できるよう人材育成
- ・会員一人一人の発言が有効に生かされるシステムの構築
- ・誰もが会員として参加しやすい開かれた組織体制の整備

3) 資金計画

自立できるように事業計画を検討中

- ・遠い将来の目標（沿道店舗が店前の歩道へテーブル、イスを並べ営業スペースに利用可能になる法整備）の足がかりとして、中心部へ店舗を借り「前面歩道へ日常的にオープンカフェを広げた場合の動向・意識調査」の社会実験を目的として最低、固定費及び運営費を支払える位の収益が上がる事業を検討している。

4) 活動推進方策

- ・街カフェ養成塾の開催で共通認識の会員増強を図り本会の組織本体の強化
- ・協力団体・関係団体とのネットワークの拡張と強化
- ・全国の事例を学び岡山らしいスタイルの模索と定着促進

5) その他

検討委員会発足から実施までの4年間、実施開催から3年を過ぎ、ようやく岡山で「オープンカフェ」というスタイルが認知され始めました。しかしいまだに、



カフェハウスの前での記念写真

「歩道や公園に店を出させても良いのか」との問い合わせが、行政担当部署に入るのが現状です。公共空間を誰でもが平等に、有効に利活用できるようになるまでは、まだまだ道のりは遠いようです。今回のカフェハウスは、公共空間を住民主体で活用する有効性を象徴できるシンボルとなります。カフェハウスが育む笑顔が、その一歩が踏み出せない志のある方々の勇気付けになれることを信じて歩きます。

* 仮称「カフェハウス」は公募により「青空倶楽部ハウス」と命名されました。



カフェハウスはコンペの優秀賞三点の良い所取りのデザインとなりました。